

EVENT 134 MARKETING

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
TEL03-6721-5303 sofufu@event-marketing.co.jp

特集 対話・交流から生まれる
サステナビリティ実践録



展示会開催宣言！
「RISON TOKYO 2026」
株式会社東京ビッグサイト
菊池 徹さん / 清水愛理さん

TAKE FREE www.event-marketing.co.jp

選べる幸せ



「サステナビューティーフェス2026」より (Photo: Kaoru Yamada)

映画館では昔から鑑賞者に、オリジナルカードやステッカーがもらえる、という数量や期間を限定した特典付きの作品がある。最近では、公開すぐの週末の特別イベントとして、DJ の場を設けるなど、映画鑑賞後に世界観を共有できる仕掛けも体験した。どれも作品の余韻を楽しむことのできる、とても素敵なプレゼントだと思う。

イベントやライブにはどんな贈り物があって、参加者は何を持ち帰るのだろうか。

例えば、グッズ一つとっても、そこにはその年、その場ならではの趣向を凝らした工夫が詰まっていて、楽しみにしている人もいます。

今回、「サステナビリティ実践録」特集で取材した「サステナビューティーフェス 2026」

では、バッグやサコッシュのグッズが用意されていた。会場のステージの横断幕をアップサイクルしたものだ。横断幕のどの部分を使用したデザインにするか、購入者はその場で選べるという（写真）。制作工程に参加者の選択を組み込める点でも、イベント会場で選ぶワクワクやときめきも含んでいる点でも、フェスの「楽しいから、はじめよう」というコンセプト

に合っていて、関わる全員にとって、無理なく結びつきが感じられるグッズだ。

グッズを選ぶ楽しさと同じように、サステナビリティの取り組み方にも、これが正解というものではなく、現場ごとの工夫が少しずつ増えて、選べる幸せが広がっている。その現在地を、今号の「サステナビリティ実践録」でのぞいてほしい。（編集部・樋口陽子）

リアルもオンラインも ビジネスイベントを もっと簡単に

イベント主催者の悩みをすぐに解決できる
イベントマーケティングプラットフォーム

お問い合わせはこちら



充実した機能

オンライン決済 / 領収書データ発行（インボイス制度対応）
QRコードチェックイン / 来場者・視聴者トラッキング
ビジネスマッチング / タイムテーブル / 抽選（事前審査）
プロモーションコード / 来場通知メール and more...



BtoB イベント実績多数

ビジネスカンファレンス / セミナー・ウェビナー / 展示会
プライベートショー / 自治体主催イベント
ユーザーコミュニティ / マーケティングイベント / ミートアップ
リアル・オンライン・ハイブリッドイベント



イベントレジスト株式会社
<https://eventregist.com>



対話
交流

から

生まれるサステナビリティ実践録

サステナビリティの実装は、一人で完結するものではない。業界を越えて基準を共につくるフェスも、多様性を考えるワークショップも、循環型の仕組みづくりを担う制作の現場も、そこには必ず「対話」と「交流」があった。人と出会い、語り合う中から生まれた3つの実践を追った。

「サステナビューティーフェス 2026」に学ぶ

—EVENT CARBON SIMULATOR 試験運用 第一号の舞台裏—



web 版

—サステナビューティーフェスでの試験運用は、どのような経緯で至ったのですか

深本 次世代型のサステナブルイベントを実

現したいという思いから、企画段階より、環境に配慮した取り組みを行うだけでなく、その結果を数値化し、レポートとして発表するところ



深本 南さん (写真左)

社会起業家
eleventh hour 合同会社 代表
「サステナビューティーフェス 2026」サステナブルプロデューサー
2020年にサステナブルメディア「ELEMENIST」を設立。現在は「eleventh hour」代表として企業やブランドのサステナビリティ戦略を策定し、事業やイベントでの実装まで手がける。

永川 裕樹さん (写真右)

株式会社電通ライブ
経営推進局ネクストビジネス開発部
電通ライブで空間プロデューサー兼新規事業開発担当として活動。
ECS 運用ワーキンググループにはプロジェクトファシリテーターとして参画している。

音楽フェス「サステナビューティーフェス 2026」は、イベント業界横断で開発が進む「EVENT CARBON SIMULATOR (ECS)」の試験運用第一号イベントとなった。サステナブルプロデューサーとして現場の設計を担った深本南さんと、ECS 運用ワーキンググループの永川裕樹さんに、試験運用で見た実務のリアルを聞いた。

まで見据えていました。まずは省エネに努め、取り組みの効果を定量化することで、実施しない場合との差を可視化する。さらに、どうしても発生してしまう環境負荷をオフセットし、よりクリーンなフェスを目指す。そこまでを一連の取り組みとして実現したいと考えていました。会場の資源やゴミの重量、電気使用量、来場者やスタッフの移動によるCO₂排出量まで把握したいと考えていたタイミングで皆さんと出会い、このフェスを第一号として一緒に取り組ませていただきました。

—ECS 開発の背景を教えてください

永川 社会的にサステナビリティ情報の開示が求められる中、イベント領域でもさまざまな団体や企業が独自にカリキュレーターを作る動きがあり、計算式がバラバラで、クライアント

トからすると算出ツールごとに測り方が違う状態になってしまっていました。そこでまず基準を統一しようというのがきっかけです。2025年末まで一般社団法人イベント産業振興協会(JACE)に加盟している12社が集まって開発を進めていたのですが、2026年5月から体制も変更し、15社で運用の段階に入りました。

—ECSの特徴について教えてください。

永川 大きくは、金額ベースではなく重量ベースであることです。従来は金額に排出量の平均値をかけて概算する方式が主流でしたが、その場合、環境配慮された素材を使っても一切考慮されず、売上が上がるほど排出量も増えてしまう。そこで資材の重量や素材、廃棄方法から積み上げて算定する方式にしました。一度概算で入力し「これをやめたら下

人と社会の安全・安心をこれからも支え続けていきます。

25年の確かな守り、JSSの使命。

143

施設警備

航空保安警備

交通誘導

イベント警備

JSSの主な業務

- 施設警備
- 航空保安警備
- イベント警備
- 交通誘導
- 身辺警備
- 保安警備

事前に“2つの盾”で攻撃対策！

VDP 脆弱性診断「VDP」
ネットワーク内からVPNの脆弱性を定期健診発見した脆弱性に対する改善策を提示！

CRA バックアップ「CRA」
有事のダメージを最小化、迅速にバックアップデータで復旧可能！

株式会社 JSS

東京・神奈川・千葉・大阪・宮城
全国で警備サービスを展開中

会社情報・採用情報は
こちらから
<https://j-ss.jp/>

ショーテクニカルセンター、始動。

まじめに、まっすぐに。

Ray

株式会社レイ ショーテクニカルユニット

東京事業所 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 TRC A棟6F (AE6-5)
TEL:03-5767-5910

関西事業所 〒537-0002 大阪府大阪市東成区深江南3-1-3
TEL:06-6972-3066

詳しくはWebをご覧ください
<https://showtech.ray.co.jp/>

Ray SHOWTECH.



「EVENT CARBON SIMULATOR」はイベント業界横断で開発された、CO2 排出量を算定するツール。金額ベースの概算ではなく、資材の重量・素材・廃棄方法ごとに積み上げて算出することで、環境配慮の努力を数値に正確に反映できる仕組みになっている



がるか」をシミュレーションできることから、シミュレーターという名にしています。

——重量ベースでの算定、実際どれくらい大変でしたか

深本 イベントをつくり上げるステークホルダーは、それぞれ目指すゴールが異なります。音楽チームは素晴らしいステージを提供すること、飲食チームは安全でおいしい食事を届けること。サステナビリティに関する共通認識はまだ十分ではなく、環境負荷を算定する意義も浸透していません。そのため、算定に必要な工程を増やすことも容易ではありません。今回は可能な範囲で情報を集めました。今後は、より精度の高いデータ収集に向け、既存業務にもう一工程を組み込むための業務設計を考え、関わる皆さんに次世代型フェスのあり方をどう伝え、共通認識を育んでいくな課題です。

——出店者側のゴミ計測についても、具体的な工夫があったそうですね

深本 通常、出店者のゴミは有料引き取りか持ち帰りが一般的ですが、今回はアルミ缶や生ゴミを含めて資源循環できるものはあえて「置いていってください」と伝え、店舗ごとの排出量をシステムでデータ化しました。出店者からはリユース食器も導入していたことも重なり、他イベントと比較して圧倒的にゴミが少なかったと喜んでくださいました。

■「SBF」来場者の移動手段別CO2排出量

移動手段	人数	延べ走行距離	CO2排出量	CO2構成比
ガソリン車	非公開	158,834 km	39,551kg-CO2	73.9%
バス	非公開	54,318 km	4,888kg-CO2	9.1%
電車/新幹線	非公開	70,962 km	1,871kg-CO2	3.5%
飛行機	非公開	64,302 km	7,211kg-CO2	13.5%
徒歩・自転車	非公開	-	-	0%
合計	非公開	348,416 km	53,521kg-CO2	100%

来場者の移動によるCO2排出量は約53.5トン。ガソリン車が全体の74%を占め最大の排出源に。飛行機は利用者が少ない一方で負荷が大きく、電車は環境負荷が低い

「SUSTAINABLE BEAUTY FES 2026」開催概要

会期：2026 年 5 月 23 日（土）・24 日（日）
会場：河口湖ステラシアター（山梨県南都留郡富士河口湖町）
出演アーティスト：全 10 組（2 日間）
フード・物販出店：計 14 店舗
総合プロデューサー：柴咲コウ
サステナブルプロデューサー：深本南（社会起業家）
主催：Les Trois Graces
制作：ALIVE



永川 測っていることをちゃんと皆さんに周知して協力してもらえているのが一番すごいなと思っています。普段からの深本さんと出店者の関係性があるからこそ、義務的にではなく前向きに協力してもらえているのだと感じました。

——今回計測してみても、現場の肌感覚と数字は一致していましたか

深本 河口湖という立地上、車での移動が多くなることは見込んでいたため、ガソリン車による CO₂ 排出量が全体の約 70%を占めたことも想定の内範囲でした。一方で、今回は鉄道やバスとの連携により、環境負荷を少しでも軽減できました。机上の空論にとどめず、経済合理性とサステナビリティの両立、さらに現場で必要となる作業工程や工数を見極めなが



「サステナビューティーフェス 2026」（2026 年 5 月 23 日・24 日、河口湖ステラシアター）は「楽しいから、はじめよう」をコンセプトに、柴咲コウが総合プロデューサーを務め、音楽・食・ファッションを通じて、楽しみながら持続可能な未来への選択肢に触れられる新しいフェスティバル（Photo: 築地 孝典）



会場の横断幕をアップサイクルしたバッグやサコッシュ。パーツごとに柄が選べ、来場者に好評を博した（Photo: Kaoru Yamada）



来場者に配布されたリユースカップ。使用後は洗浄ステーションで洗って繰り返し使い、最後は記念品として持ち帰れる（Photo: Kaoru Yamada）

ら、どこまで環境負荷の低いフェスを実現できるのかを実地で検証できたと考えています。

——計測結果について、具体的な数字を教えてください

永川 来場者由来の移動だけで 53 トンの CO₂ が排出されたという結果になりました。移動手段ごとの内訳も算出していて、今回は車での来場が多く、車と電車では同じ距離でも排出量に大きな差が出ます。スタッフの移動分は合計で約 10 トン、会場の電気使用量は約 1.6 トン。改めて、移動が最も大きな負荷になっていることが数字として明確になりました。バス利用への転換など、来年以降の改善余地の一つだと考えています。また、主催者側の資材輸送も、集積して 1 台にまとめることで走行距離を減らせる可能性があります。全体の CO₂ 排出量の総計は開示予定で、オフセットについても現在協議中です。

——ECS 試験運用の第一号を経て、見えてきた次のステップを教えてください

永川 できれば早い段階からサプライヤーの皆さんに集まっていたいて、どう下げられるかを一緒に話し合える場を作りたいです。シミュレーターとしては「測る」部分ではできているのですが、「どう下げるか」の知見はまだまだこれから。色々な現場で一緒にしながら知見を貯めていけるといいなと思っています。
深本 作る工程から使う工程までのサプライチェーン全体が見える化していく時代は、そう遠くないと思っています。今回のフェスは、ゼロを 1 にするスタートに立てたと感じていて、その 1 というのが皆さんに計測いただいた数字そのものです。継続していくためには企業協賛も欠かせないので、私たちの活動に共感していただける企業の皆さんに、ぜひ参画いただけたら嬉しいです。
(対談全文は web 版にて公開中)

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

年間イベント件数：約20件
デジタルマーケティングと
オフラインを組み合わせ
て販促とファンづくりに

製薬会社
ミーティングプランナー

年間イベント件数：100件超
業界のファーストムーバーとして
異業種のトレンドを知り
講演会に活かしたい

IT 企業向け
マーケティングサポーター

年間イベント件数：約150件
イベントマーケティングに関わる
テクノロジーやツールについて
情報収集したい

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABC ビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp

ゲームでみえた本音の対話



web 版

—「ダイバーシティイベント・ワークショップ体験会」レポート—

多様な人々が「自分ごと」としてダイバーシティを考える体験の場——7月28日、AP 赤坂グリーンクロスで「ダイバーシティイベント・ワークショップ体験会」が開催された。主催は本誌、協力はイベント制作会社の株式会社セレスポ人事総務部。イベント主催者から会場運営者まで、業種も関わり方も異なる約20名が、座学とカードゲームを通じてイベントとダイバーシティの関係を探った。

DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の理解と実践を後押しする体験型研修プログラムが、セレスポから8月6日に提供開始された。

「ダイバーシティイベント・ワークショップ体験会」は同プログラムの先行実施として開催。企画を推進した越川延明さん（株式会社セレスポ 執行役員・人事総務部長・広報室長）は、2010年からイベントのサステナビリティに携わっており開発の狙いをこう語る。

「ダイバーシティへの配慮は総論では“やった方がいい”ことばかりで、なかなか優先順位

を決められない。だからこそ、あえてリソースの上限を設け、何を優先し何を手放すかをカードゲームで体験してもらう設計にしました」（越川さん）

正解を示すのではなく、対話を引き出すためのツールとして生まれたという。

前半は「座学」でダイバーシティとイベントの関係を学び、後半は4～5名のチームに分かれ「ダイバーシティイベントカード」を体験。最後に気づきを共有する。

ゲームは4～5名1チームで「イベントカード」（イベントジャンル）と「ニーズカード」（生



「ダイバーシティイベント・ワークショップ体験会」

AP 赤坂グリーンクロスを会場に、約20名の多様な参加者とワークショップを体験した



Cチームではイベント「オンラインイベント」、ニーズ「ブランド価値向上」の設定で展開。プレゼンでは、大学研究者や教員が登場する防災イベント案の多言語での情報伝達と外国人参加者への配慮が「地震大国・日本に暮らす人々への安心」というブランド価値と自然に結びついている点が評価された

み出したい効果）を引きゴールを設定。組織体制・会場設備・広報申込・プログラム・運営の5分野、56種の「取り組みカード」から、5ターンの間に引く・手放す・交換するを選びながら手札を整える。カードにはリソース（お金・人・時間）があり、合計24を超えて失格。最後は「参加者役」にイベントと意図をプレゼンし、投票してもらう。堅苦しさはなく、ゲームを介して「自分だったらどうするか」を考える場となった。実際、同じゴールでも参加者ごとに全く違う案が生まれ、着眼点の違い自体が学びになっていた。

印象的だったのは参加者の声だ。

「イベントはどうしても参加者の満足度で測ることが多いが、ダイバーシティ面での満足度の評価があってもいいと気づきがあった」

（親子向けイベント主催団体関係者）

「“ダイバーシティ”という言葉が抽象的なキーワードとして使われやすいので、解像度を上げたくて参加した。セミナーより楽しみながら学べた」（パラスポーツ関連団体関係者）

「発信に国際的な視点が求められる中、海外の関係者から表現の問題を指摘されることも少なくない」（国際的イベント主催者）

「イスラムの方向けのカードもあり、網羅されていて驚いた」（会場運営者）

すべてを一度に解決するのは難しい。それでも、肩の力を抜いて楽しむゲーム形式だからこそ、立場を超えた本音の対話が自然と生まれた。「自分ごと化」してみる——今回の体験会が示していたのは、そんな等身大の一步だった。（体験レポート全文はweb版にて公開中）

100 Years, 100 Colors.

私たちが紡いできた100年は、空間ではなく、心に残る体験の積み重ねでした。

集う場に寄り添い、人と人をつなぎ、社会の変化に伴走する——その一つひとつが彩りのように積み重なって、今の私たちを形づくっています。

教育、地域、医療、エンターテインメント、そして環境——多様な分野の課題に寄り添い、体験で応える仕事を続けてきた私たちは思っています。

100周年は、ただの節目ではありません。これまでの彩りを見つめなおし、次の一步を共ににつくっていくためのスタートです。



100周年特設サイト

SYMUNITY GROUP

国内最大級 | イベントマーケティングプラットフォーム

10 年以上にわたり、
企業イベントの成功を支えてきました

イベント導入数 **7,500** 件

デジタル名刺交換 **250** 万件

総来場者数 **1,200** 万人

TOYOTA | NTT | KDDI | HITACHI | MITSUBISHI ELECTRIC | Panasonic | Rakuten | MIZUHO

Yamaha | OBC | WingArc | SMS | Adecco | マイナビ | Money Forward | FORTIS

イベントの成功体験を実現する
eventos の導入事例をご紹介します

bravesoft

bravesoft株式会社の
公式サイトはこちら

効率化が結果的にサステナブルになる

— JACE 昭栄美術 SHOEI ベイスタジオ視察 —

日本イベント産業振興協会（JACE）サステナビリティ委員会は、環境・人権の両面から会員各社の方針や取組みを調査。業界として知見を共有する活動を始め、業界全体でのサステナビリティの機運を高めている。その一環として7月16日、委員会メンバーが千葉県市川市の昭栄美術の「SHOEI ベイスタジオ」を視察した。

SHOEI ベイスタジオは2019年、千葉県市川市に開設。サッカーコート約5面分にわたる8200坪の敷地に木工からサイン・アクリル、映像・音響、レンタル、電気、物流まで、幅広い機能を集約し、イベント制作をワンストップで担う。そのSDGsへの取組みは、小学生が見学に来れるなど、先進的なものとして地域でも知られており、施工会社の日常業務がサステナブルなイベント制作の最前線として学びの対象になっている。

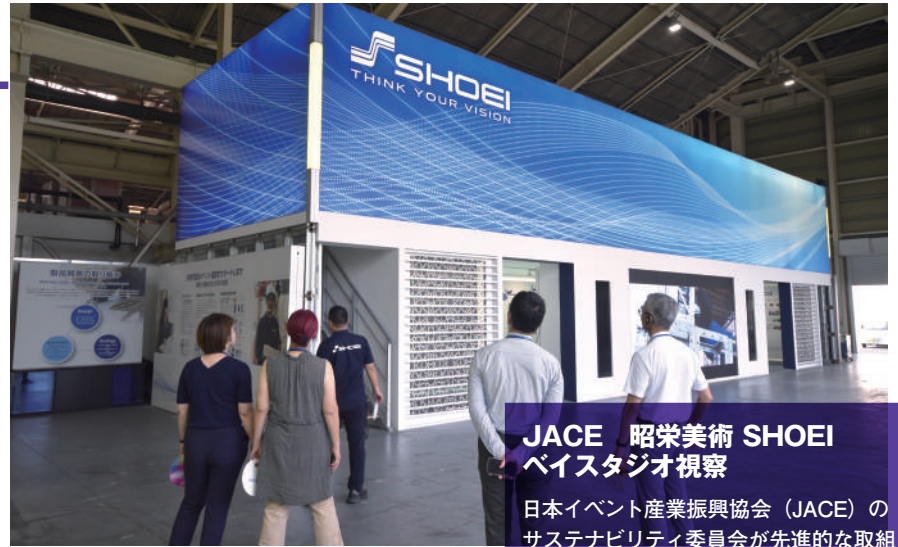
視察中で注目を集めたのは、廃材から新たな造形物をつくる「循環型ディスプレイ」だ。工場内の木工造作やイベント設営で発生した木廃材を粉砕機でフレーク化し、押出成形機で溶かしてフィラメント状にしたうえでベレット化、超大型3Dプリンターで造形する。実例として、大阪・関西万博では飲料メーカーのボトルキャップとレストランのテーブル天板を粉砕した材料で屋外ベンチを製作したほか、3DP製作物としては日本初の防災認定を取得した床材を商品化し、展示会のブース制

作で提供、また、海外展示会への出展サポートとして、バイオマスプラスチックを使用した3DP造形物を製作するなど、企業との協業による循環型素材活用の事例が共有された。

サイン・アクリル工場では、印刷物製作に使う大判インクジェット機の多くに低臭タイプのインクを採用し、飲食店や子ども連れが多い展示会にも配慮した仕様になっていること、スチレンボードの代わりに回収可能な段ボールパネルを積極活用していることが紹介された。製作パネルにはすべてQRコードを付与し、機械が形状・サイズを自動認識して無人でカットする仕組みも導入。資材のムダを削減し、短納期・大量枚数という展示会特有の制約に、テクノロジーで応えている現場だった。

各部署で進む環境配慮の取組み

木工工場では、展示・イベント業界で唯一取得しているというFSC森林認証木材を、ISO9001、ISO20121、CoC認証を取得した



JACE 昭栄美術 SHOEI ベイスタジオ視察

日本イベント産業振興協会（JACE）のサステナビリティ委員会が先進的な取組みを見学、知見を共有する

体制で厳格に管理していることが紹介された。あわせて、造作で出た端材を素材別サイズ別で保管し別の造作で無駄なく有効活用をする仕組みや、木工造作製品の再利用の取組み、それでも余った端材は「エコ材広場」と呼ぶ場集め、社内ですべてに使えるようにする地道な取組みも実施。展示会などで主に使われるシステム展示台でも改良が進み、従来はアルミの柱・梁とベニヤを使い現場で組み立てていた工程を、展示台の土台を折り畳み式にして、開いて天板を載せるだけのシンプルな形に刷新。工具を使わず接合組立ができる壁面新システムも開発し、組み立て時間の短縮とパートナー企業の作業負担軽減を両立させている。レンタル部門でも什器の軽量化やカゴ台車の活用でトラックの積載効率を高め、

物流輸送部門では、展示会の標準ブースに合わせ高さ2.7mの造作物を載せられる特装4tウィングトラックを独自開発している。

案内役を務めた同社の羽山寛幸専務は一連の取組みを「廃棄するより再利用した方が顧客に安価に提供でき、自社の収益も上がる、として取り組んだことが、結果的にサステナブルになっている」と総括した。環境配慮を特別な取り組みとしてではなく、日々の事業改善の延長として実践してきた姿勢がうかがえた。

視察後参加者からは、「全行程を自社で完結しているからこそこの発想。効率化がサステナブルな取り組みにつながるのが理想的」といった感想があげられた。

（レポート全文はweb版にて公開中）



私たちが目指すもの



昭栄美術は循環型ディスプレイで展示・イベント業界の持続可能性に取り組んでいます。

大型3D
プリンター活用

廃棄物を資源とする
循環システム構築

FSC認証
木材使用

環境に配慮した
素材の管理及び使用

ISO認証
取得

第三者認証による
継続的な品質保証



業界に先駆けてISO20121の認証を取得し、環境や社会の持続可能性に配慮した展示会・イベントを実現する総合ディスプレイ企業です。

株式会社 昭栄美術

東京本社

東京都中央区明石町8-1
聖路加タワー25F
TEL：03-5148-6651

大阪オフィス/スタジオ

大阪府大阪市住之江区
南海中1-9-92
TEL：06-6613-6622

SHOEIベスタジオ

千葉県市川市加藤新田212-4

佐倉スタジオ

千葉県佐倉市太田2153-1

Expo&Convention Organizer System



出展者との書類のやり取りが大変？

ECOS で簡単に解決！

来場者・出展者・セミナーをシステムでまとめて管理！
「展示会」「就職セミナー」「お祭り」など
多数イベントにご導入いただいております。

公式サイトをチェック



株式会社イベントラボ 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8 日石横浜ビル15F 045-263-9177

サクラインターナショナル「安全大会 2026」レポート

変わるルール、 変わらない基本

サクラインターナショナル株式会社は8月3日、奈良県橿原文化会館で「安全大会 2026」を開催した。関東・関西で隔年開催する本大会は12回目を数え、本年は関西での開催となった。社員に加え全国から多くの協力会社が参集し、テーマ「変わるルール、基本を守る安全行動」のもと、安全意識をさらに高め合う1日となった。

安全委員会委員長・竹下さんの開会宣言では、法規改正や人手不足に伴う未熟練者の増加により安全管理の重要性が高まる中、前年築いた高い安全意識を土台に基本行動を徹底していく方針が示され、「日々、誰一人欠けることなく、確実にゼロ災害を貫いていきたい」と力を込めた。

安全委員会事務局・森田さんから

は主要現場での安全巡回実施報告、須田さんからは事故統計報告と傾向分析、KY資料報告が行われた。事故・ヒヤリハットは増加傾向にあり、車両操作時の安全未確認や整理整頓不足などが要因に挙げられ、車間確保や声掛けの徹底が呼びかけられた。一方、KYM（危険予知ミーティング）の実施率は着実に改善しているとい

う。大阪製作管理部・村社さんから、スマートフォンから事故を即時報告できるWeb事故報告ツールが紹介された。第1報を現場から、詳細な第2報を後ほどパソコンから送る2段階方式で、現場での負担軽減を狙い、来期からの社内導入と将来的な社外向け提供が検討されている。

伝える経験、受け継ぐ基本、 つなぐゼロ災害

安全標語には協力会社99件、社内408件、合計507件という過去最多の応募が寄せられた。安全委員会担当役員・樽井さんの代理として浦久保執行役員が進行を務め、佳作・優秀賞に続き、最優秀賞に選ばれたのは大阪オーガナイザーサポート部・稲村幸子さんの「伝える経験、受け継ぐ基本、つなぐゼロ災害」。稲村さんは「実際に経験したからこそ得られる気づきや判断、危険を回避するための工夫は、先輩から後輩へ伝えていくことで受け継がれる」とコメントし、このフレーズは今年度大会の合言葉として位置づけられた。

参加者全員がスマートフォンで参加するリアルタイムディスカッション「Sakura de discussion」では、熱



参加者全員で、安全対策からはじめるイベントの成功を誓う

中症対策や高所作業の安全、インテックス大阪の改修計画、女性活躍推進法・次世代法に基づく認定制度など5つのテーマについて、社外ゲスト3名を交えて意見が交わされた。

大会決議文では、フォークリフトの荷崩れやバック走行時の接触など車両系事故の増加を踏まえ、車間確保や周囲確認といった基本動作を、経験の有無にかかわらず全ての現場で徹底することが確認された。あわせて、本年同社がISO14001の認証を取得したことも報告された。横浜支店からは、来年に迫る国際園芸博覧会を見据えた神奈川県内の業務拡大や、パシフィコ横浜の会議センター・ノース多目的ホールを活用した国際会議誘致の方針が紹介された。

閉会挨拶に立った代表取締役・妙

代金幸さんは、ラスベガスCESや9月マイアミ開催のSIBOSをはじめ世界各地での事業にも触れ、「安全こそビジネスです。皆様と一緒に、サクラインターナショナルとともにイベントを大成功に導いていただきたい」と協力会社への感謝を述べた。

大会後には製作拠点・飛鳥スタジオの見学も行われた。グラフィック制作部門GDOの紹介に続き、パネルへの直接印刷とカットを一体で行う大型機「Zünd（ズンド）」などが披露された。継ぎ目のない仕上がりを実現するこの機械の導入で、これまで難しかった案件にも対応できるようになったという。507件の標語に象徴される、一人ひとりの意識の積み重ねこそが、同社の掲げるゼロ災害を支えている。



安全標語最優秀賞の稲村幸子さん



Sakura de discussion はそれぞれの知見を発揮

日本から海外へ 海外から日本へ

国際的なイベントの ご相談はぜひ当社へ。

当社のマルチリンガルスタッフが対応いたします。



The **Green** Glocal BUSINESS Producer
Think Globally, Act Locally.

サクラインターナショナル株式会社

【東京グローバル本部】〒135-0042 東京都江東区木場 2-17-13 第二亀井ビル5F Tel:06-6264-3900
【大阪本社】〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町1-7-3 ENDO堺筋ビル3F・4F Tel:06-6264-3900
【愛知支店】〒453-0014 愛知県名古屋市中村区則武2-14-11 名駅富士ビル27号室 Tel:052-433-6500
【横浜支店】〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 展示ホールA 海側 M2F Tel:045-211-6397
【インテックス事務所】〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102インテックス大阪センタービル2F Tel:050-5804-1783
Sakura International USA, Inc. | 555 E. Pamalyn Ave. Suite B, Las Vegas, NV 89119, USA
櫻妙际(上海)文化伝播有限公司 | 中国上海市普陀区金沙江路1628弄绿洲中环中心5号楼716室
https://www.sakurain.co.jp

全国のビジネスイベントを、ひと目で。

業種 × 地域 × イベント種別でクロス検索！

EVENT MARKETING イベントスケジュール 公開中！ イベントマーケティング スケジュール



展示会 開催宣言！

RISCON TOKYO 2026

企業・行政の安全対策関係者が集う
危機管理の総合展

株式会社東京ビッグサイト
事業推進部長
菊池 徹さん
事業推進部事業推進第二課長
清水 愛理さん

「危機管理」をテーマにした国内最大級の総合展示会、RISCON TOKYO（危機管理産業展）が9月30日から10月2日まで、東京ビッグサイトで開催される。2005年の初回開催から22回目となる今回は、SEECAT 含め過去最大となる520社825小間（2026年8月14日時点）の規模だ。主催する東京ビッグサイトの菊池徹さん、清水愛理さんに見どころを聞いた。

RISCONは「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」の3分野で構成される危機管理の総合展だ。行政機関や自治体、治安関係者の来場が非常に多いのが特徴で、専門性の高いセミナーも人気コンテンツとなっている。主催は東京ビッグサイト、特別協力は東京都。会場は今回から南展示棟全館（南1～4ホール）に移り、規模を拡大しての開催だ。出展規模はSEECAT 含め前回2025年の457社698小間から、今回は520社825小間へと過去最大を更新する見込みという。国・自治体関係者をはじめ、インフラ・製造業など幅広い業界の経営幹部や総務・人事、施設管理の担当者が主な来場対象。来場登録・セミナー聴講登録は公式サイトから行える。

始まりは2005年。阪神淡路大震災の経験を踏まえ、「東京都を中心としたアドバイザーボードが立ち上がり、危機管理に関する総合的な展示会の立ち上げが必要」とスタートした。特別協力で東京都の名を冠するのはこの経緯による。行政の各組織に横串・縦串を刺して危機管理をトータルで見られる場となっている。運営は現在ほぼ東京ビッグサイト独自で行うが、都庁各局や警視庁、東京消防庁、自衛隊を含めた12機関が参画する「東京都パビリオン」の運営や一部セミナーは、引き続き東京都の協力を得ている。今年は平

成28年熊本地震から10年の節目にあたり、当時の教訓をパネル展示やセミナーで検証する企画もあるという。同時開催のテロ対策特殊装備展（SEECAT）も、今年で20周年を迎える。

危機管理3分野の出展と
最新トレンド学ぶセミナー

出展類で最も多いのは防災・減災で全体の約65%。今年は防災備蓄品や避難所資機材の出展が目立つ。同社自身も地震時の一時滞在施設などの指定を受けており、3日分の食料や簡易ベッドを常備するという自社の知見も企画に活かされている。BCPは防災・セキュリティとも重なる領域で、熱中症対策やITBCP、生成AIに絡む著作権リスクなどが話題だ。防災特化型AIへのリスク対応は、セキュリティ分野の話題になる。

防災・減災はフィジカルな対応が必要で、そうした製品・ソリューションの印象が強いが、会場の20%程度を占めるセキュリティ分野では、通信各社がソリューションを出展するなどAI/DX関連の出展も増えている。

もう一つ他業界でも注目されているドローンやロボットについては併催企画「危機管理ドローン・ロボット」として展開し、今年は前年の1.5倍規模に拡大。数年前から出展はあったが、メディアでも注目されるようになった。4足歩行ロボットなど、東京

消防庁による出初式での実演をはじめ実用化も進む。昨年新設したスタートアップ向け出展枠「Risk Control Startups」には今年も15社ほどが出展予定だ。2017年以降設立の企業などが対象で、出展料は半額、基本装飾込みという。

セミナーは、キャノングローバル戦略研究所の宮家邦彦さんや「リスク対策.com」編集長の中澤幸介さん、公共政策調査会の板橋功さんをはじめリスク管理の識者が多数登壇。今年11月に発足する防災庁に関するセッションも予定する。来場者としては、単に製品を見るだけでなく、専門セミナーを通じて危機管理の最新知見を得られる点も魅力だという。特に自治体の総務・防災担当者にとっては、他地域の取り組みを知る貴重な機会にもなっている。

来場者向けの主催者企画も充実する。自治体・地域の防災担当者を対象にした「防災カンファレンス」や、行政機関による特殊車両・資機材の展示など、会場でしか見られないコンテンツも用意されているという。出展製品も実際に見て・触れて検討できることが多く、導入を具体的に検討している来場者からの評価も高いという。

疑似体験で伝える
生活感と備えの重要さ

今回の注目企画の1つが「シェル



前回開催の受付のようす。企業・行政の担当者が集まる

ター疑似体験」。政府が3月に閣議決定したシェルター整備方針を受けた緊急企画で、会場内に部屋を建て込み、来場者が実際に中へ入って体験できる。実演体験ステージ「Risk Control LIVE」では、出展者がブース内だけでなく共有ステージでドローンやロボットを操作する様子を見られる。

備蓄食を試食できる「RISCON 防災カフェ」も人気で、乾パンやアルファ米だった時代から、普通に食べても違和感のない味わいの商品が並ぶようになったという。

菊池さんは「業界にいるとほとんどのビジネスパーソンが何かしらの展示会に来場しているような感覚に陥りがちだが、実際はまだまだ潜在的な来場層が多数存在する。自治体はもちろん、BCPはどの企業にも存在するリスクだとして、企業の総務関係者やこれまで展示会に縁のな

開催概要

名 称：危機管理産業展
（RISCON TOKYO）2026
会 期：2026年9月30日（水）～10月2日（金）
会 場：東京ビッグサイト（南展示棟全館）
同時開催：テロ対策特殊装備展（SEECAT）'26
主催：株式会社東京ビッグサイト
特別協力：東京都



災害をリアルに体験できるVR防災体験



東京都パビリオン

かった企業などにも足を運んでほしい。清水さんは「自分のやりたいことと、世の中のニーズがマッチして、形になった瞬間に達成感がある」と主催者としての面白さを語った。他主催事業も含め、若年層やアスリート登壇など、業界の担い手不足も見据えた企画の多様化にも取り組んでいるという。

過去最大規模で開催！ 入場無料

Risk Control in Tokyo

RISCON

TOKYO

危機管理産業展2026
Security & Safety Trade Expo

9.30 水 WED 10.2 金 FRI 10:00 東京ビッグサイト 17:00 南展示棟全館 南1～4ホール

博覧会・展示会の企画に参画させて下さい。

お問い合わせは、下記事業所へ

■ イベント事業本部 〒136-0082 東京都江東区新木場1-8-21
TEL 03(3521)3522 FAX 03(3521)3524

IIDA

飯田電機工業株式会社

<https://iida.jp>■ 千葉事業所 〒261-7715 千葉市美浜区中瀬6-1W8Gマリスト15F
TEL 043(273)2441 FAX 043(273)2531■ 池袋サンシャイン事業所 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-1-4 文化会館3F
TEL 03(3982)9551 FAX 03(3982)9564■ 大阪事業所 〒550-0011 大阪市西区阿波座1-9-9 阿波座パークビル
TEL 06(6543)2880 FAX 06(6543)2884■ 本社事業本部 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-7 表参道Dビル3F
TEL 03(3409)3333 FAX 03(3409)0104■ 本社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-7
TEL 03(3409)3331 FAX 03(3409)3827

展示会シミュレーションゲームを制作

—— ナインアウト

展示会出展成果の最大化を支援するAIインターフェース「Ask One」を提供するナインアウト株式会社（東京都港区、代表取締役：石野真吾）は8月4日、株式会社セガ エックスティー監修の展示会出展戦略シ

ミュレーションゲーム「THE EXPO presented by Ask One」を公開した。スマホ・PCで無料プレイでき、出展準備からブース運営、トラブル対応までを疑似体験しながら学べる。

インタビューはこちら。

出展をゲームに「THE EXPO」



臨海副都心の水辺の可能性探る

—— イベント学会ウエルビーイング研究会

イベント学会世界都市・東京の水辺の魅力を探るウエルビーイング研究会は7月18～19日、臨海副都心をテーマに現地プレスト合宿を実施した。埋立地ゆえ多彩な水辺の可能性を秘める臨海副都心について、今年3月開業の「海の森公園・海の森

水上競技場」や、今年3月に完成したお台場海浜公園の世界最大級「大噴水システム」を参加体験の核に、ポテンシャルを探索。東京都港湾局『ミナトリエ』見学から、新しい交通システムを乗り継ぐユニークな体験学習プログラムを実施した。



屋形船も噴水の時間に集まる

こどもポスプロ体験会、CM制作に挑戦

株式会社レイ

株式会社レイは8月6・7・10日、東京・港区のレイビル「mcray 西麻布スタジオ1」で「こどもポスプロ体験会」を開催した。参加した子どもたちはCM「シン・ただの水」制作をミッションに、撮影からオフライン編集、カラーグレーディング、MA、フレーム作業まで一連のポスプロ工程を体験。撮影時にはレールに乗ったカメラの操作やピント合わせにも

挑戦した。参加した子どもたち、それぞれの好きなモノを撮影してCMに登場させるバージョンも編集した。



プロの機材を使って編集

麻布台ヒルズでプレミアム空間を演出

——TSP 太陽

TSP 太陽株式会社は、独創的かつ現代的なデザインと高い構造強度を兼ね備えるイベントアーキテクチャ「Creative Structures」の日本独占販売代理店契約を結び、レンタル販売を開始した。麻布台ヒルズで8月8～11日開催の「麻布台ヒルズ 納涼祭り 2026」では、英国発「AIRCLAD」とともに協賛。オランダ発の同製品は世界60カ国に展開する斬新でラグジュアリーな構造物で、日本のイベントシーンで初導入となる。猛暑の夏でも快適に過ごせるプレミアム空間を演出し、来場者の体験価値向上に貢献する。



麻布台ヒルズでお披露目

イベントレポート

青・黄・赤、3段階のヘルメット着用義務 インテックス大阪が9月に踏み出す安全への大きな一歩



来場者数 341 名、協賛企業 66 社はいずれも過去最多に

インテックス大阪が9月から、ヘルメット着用を「任意・推奨・必須」の3段階で運用する試験を始める。最多の事故が起きる撤去時間帯を見据えた、9年目の一歩だ。

8月4日、インテックス大阪で「安全大会 2026」が開かれた。2017年の初開催から9回目、協賛企業は過去最多の66社にのぼり、東京国際フォーラムなど新たな施設も加わった。

最初の講演では中央労働災害防止協会の関一繁さんが、2027年施行の法改正により主催者が「作業場所管理事業者」として安全確保の義務を負うことになると説明。続いてインテックス大阪の長内克幸さんが、9月から始まる着用ルールの骨格を示した。作業工程ごとに、混在作業の有無と危険性の高さでヘルメットの着用レベルを判断し、単独作業が中心なら「任意」、混在はあるが危険性が低ければ「推奨」、混在があり危険性も高ければ「必須」とする三段階だ。設営初日の線引き作業は「任意」、出展者作業が本格化する段階は「必須」というように、同じ会期のなかでも基準は動く。とりわけ会期終了後に一斉撤去が始まる時間帯は「最も事

故の報告が多い」として、段階を追って着用を徹底する運用が示された。

続くパネルディスカッションでは、施工会社マッシュの渋谷紀之さんが「とにかく施工者さんはかぶりましょ」と率直に語った一方、出展者への着用は依然ハードルが高いとの声も上がった。日展協安全対策委員会の梶原委員長は「まだまだ着用率は低い」と課題も口にした。

安全標語の最優秀賞は、「これくらい 省いた手順が 事故を呼ぶ」。一年間、展示館などに掲出されるスローガンとなる。最後に株式会社ユニティーの林洋一さんが「安全はルールやマニュアルだけを守るものではなく、人が守るもの」と安全宣言を読み上げ、大会を締めくくった。9月からの試験運用は、三者それぞれの立場の違いをすり合わせる第一歩となる。



ヘルメット着用義務を青、黄、赤に

新人警備員の一日、現場研修に密着



イベント警備員の1日とはどのようなものか。株式会社JSSでは、新卒入社の岩沢璃寧さんが、イベント警備事業部長・佐藤範弘さんの指導のもと、東京ビッグサイトでの現場研修に臨んだ。装備の着け方や会場の呼称、休憩時間の調整、他社警備との連携まで、教科書だけでは得られない警備の実務を体感する一日の様子を密着取材し、Web記事にまとめた。詳しくはこちらから。



イベント MICE 業界 就職フェア

参加企業募集中!!

東京会場

2027年5月14日(金)・15日(土) 12:00～18:00
東京都立産業貿易センター浜松町館

〒105-7501 東京都港区海岸1-7-1 東京ポートシティ竹芝
主催：テレビ大阪エクスプロ、月刊イベントマーケティング

大阪会場

2027年5月28日(金)・29日(土) 11:00～17:00
大阪南港 ATCホール

〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10
主催：テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ

出展対象

イベント主催者(展示会、コンサート、スポーツイベント etc.) イベント会場 イベント運営会社 PCO
イベント協力会社(スタッフ、装飾・施工、レンタル、警備、清掃 etc.) 音響、照明 遊具、アトラクション
イベント施設(各種スポーツ施設、遊園地、動物園・水族館 etc.) ホテル 結婚式場 旅行会社 広告代理店 他

詳細は
ホームページで
ご確認ください。



後援(申請含む):
(一社)日本展示協会、(一社)日本コンベンション協会、(一社)日本イベント産業振興協会、
日本イベント業務管理士協会、(一社)日本イベント協会、(一社)日本ディスプレイ業団体連合会、
東京ディスプレイ協同組合、大阪ディスプレイ協同組合、(一社)コンサートプロモーターズ協会、
(一社)日本舞台技術スタッフ団体連合会、関西舞台テレビテクノアート協同組合、
(公財)大阪観光局 etc.

お問い合わせ (株)テレビ大阪エクスプロ
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-1-7 TEL:06-6944-9914/FAX:06-6944-9912/Email: eventjob@tvoe.co.jp

<https://www.eventjob.jp>